江南市　歴史ガイド短時間コース

（信長・生駒コース）

江南市歴史ガイドの会
連絡先：江南市観光協会事務局
（江南市役所商工観光課内）
TEL　0587-54-1111

1．移動ルート / 布袋駅発着の徒歩総移動距離；約6km　　所要時間　：　約2時間＋見学時間

出典；愛知県江南市歴史ガイドの会制作 “江南歴史ガイド短時間コース　信長・生駒コース”

布袋駅西口 ⇒ 280m ⇒ A 生駒屋敷中門 ⇒ 350m ⇒ B 信長の家族像 ⇒ 750m ⇒ C 富士塚の碑 ⇒ 600m ⇒ D 宝頂山墓地 ⇒ 260m ⇒ E 般若寺 ⇒ 400m ⇒ F 生駒屋敷跡 ⇒ 200m ⇒ G 龍神社 ⇒ 260m ⇒ H 久昌寺墓地 ⇒ 89m ⇒ I 神明社・内宮 ⇒ 260m ⇒ J 南山神明社・外宮 ⇒ 850m ⇒ K 経塚・吉乃茶毘地 ⇒ 800m ⇒ L 常観寺 ⇒ 800m ⇒ 布袋駅東口

A　生駒屋敷中門（廣間家の門）

廣間家の門は、明治初年の廃藩置県の時、生駒家にあった中門を貰い受け、移築したものです。この中門は欅造りで、門の正面にはなまこ壁が施されています。

B　信長と生駒の息女 吉乃とこどもたちの像

弘治2年（1556）頃、信長が生駒屋敷にて家宗の息女と出会い室としました。
そして生駒屋敷で嫡男・信忠、次男・信雄、長女五徳が生まれました。
その歴史を残すため、令和6年（2024）有志により家族の銅像が建立されました。

C　富士塚の碑

天正12年(1584)小牧・長久手の戦いで徳川家康が織田信雄と共に、この富士塚に登り敵状を視察した地です。後世・6代生駒利勝が天和2年(1682) に生駒家の由緒と武勲を残すためにと建立しました。

D　宝頂山墓地

石製の小橋を渡り、右端から信長の室（久庵桂昌大禅定尼）の兄にあたる生駒家四代家長夫妻の五輪塔、この近辺では珍しい石廟形式の五代利豊夫妻の墓、そして十代周房の墓碑があります。

E　般若寺

明徳2年(1391)に　僧大雲が創建し、そののち荒廃したので永禄年間(1558～1569)に 生駒氏により再建され、久昌寺の末寺となりました。　その後慶安　年間(1648～1651)に生駒因幡守利豊によって改築されました

F　生駒屋敷跡

尾張の土豪、生駒氏の居城で、3代家宗の娘が信長の室となって生駒・織田の間は親密となり尾張一円を支配するようになりました。現在は碑があるのみで、当時を偲ばせています。

G　龍神社

創立は不詳ですが、当初は国主織田信雄公の出生の地で氏神として尊敬された神社です。現存する最古の棟札によれば、元和8年(1622)岡崎城主松平信康の室、見星院並びに生駒因幡守利豊の再建となっています。

K　経塚（信長の室・荼毘地）

信長の室（久庵桂昌大禅定尼）が小牧城で没し、荼毘に付された所です。石碑に刻まれている観音像は、彼女の面影が偲ばれ、小牧山を向いています。　墓地の一角には彼岸桜（通称吉乃桜）が植えられています。

H　久昌寺墓地

最近までここに曹洞宗で大本山総持寺の直末の寺で信長の室・久庵桂昌大禅定尼の香華の場として、信長より660石を賜った由緒ある久昌寺がありましたが、かつての境内の西側には生駒家の墓地があり、ここに久庵桂昌大禅定尼の墓

I　神明社（内宮）

生駒家広が明応年間(1492～1501)　領主となり守護神として建立した社です。
一間社神明造りでこの種の古い建物が残っているのは珍しいと言 われています。

J　南山神明社（外宮）

小折地区には、伊勢神宮と同じく豊受大神を祀った外宮と内宮の神明社があり、生駒氏の氏神として慶長15年（1610）に生駒利豊により再建されました。この神社の拝殿を飾る彫刻は彫刻は野村作十郎氏の作という説があります。

L　常観寺

久昌寺の末寺で、鋳鉄地蔵菩薩立像（お釜地蔵）で知られています。永禄元年(1558)太広養が再興し、生駒利豊や利勝の援助を受け整えられました。　鋳鉄地蔵菩薩立像は県の文化財に指定され、